

長い梅雨、そしていきなり夏がやってきた！

真光寺川を清流にする会
世話人 山口拓郎

ゴールデンウィークが終わると爽やかな青空に新緑が映える五月晴れの季節の到来だ。ところが今年は五月晴れの記憶が殆ど皆無に近い。そしていつしか梅雨の季節に入っていた。鶴三小の「真光寺川ウォーク」は雨天により変更を余儀なくした。「市民大学の環境体験講座」は雨天決行となった。「真光寺川まつり2006」も開催直前まで天気予報にハラハラした。幸い当日は絶好のおまつり日和に恵まれた。そしていきなり強烈な日射しの夏がやってきた。

【5月】

5月11日(木)南東建より水道の蛇口栓奇数月の第3木曜日は境川の定期清掃日だ。9時半、桜井さんの車でJ町田駅裏の鹿島橋へ。町田で最もキタナイ河原だ。いつもよりゴミが多い。松尾、犬塚、瀬川、桜井さんの5名で2時間余り汗を流す。終了後、桜井さんと南東建東部工区管理事務所へ伺う。かねてお願いしていた通り五条池の傍らの水道設備の修理をして下さる。その蛇口栓をお渡し頂いた。感謝して辞去。

5月12日(金)一金会

18時から魚民で。高橋、山本、岩上、桜井、塩谷さん等6名。「ウォーク」「市民大学」「まつり」等諸行事の打ち合わせ。

5月18日(木)「真光寺川ウォーク」中止

早くも梅雨に入ったか天候予報はよくない。鶴三小の石渡副校長より翌日の開催中止の連絡がある。関係者へその旨電話する。

5月19日(金)「子どもフェア」告知問合せ

教育委員会社会教育課より小学生向け告知誌「夏休み子どもフェア」への「真光寺川まつり2006」の告知の是非について問合せがある。早速原稿を作成し願います。

5月23日(水)「真光寺川ウォーク」開催

弘暁、真光寺川へ。高曇り、きれいな水が流れている。ホッとす。8時に下堰親水に集合、準備に取りかかる。先生方も能ヶ谷いこい会館と下堰親水にテントを張る作業に追われる。清流の会の担当は「いこい会館」「下堰」「広袴公園」である。応援の町内会、老人会の方々も集まって来られる。9時、田中さんの水鉄砲の標的を張り終わったところへ早くも第1隊が到着する。それからは入れ替わり立ち替わり次々とグループが到着し息つく暇もない。親水場はオモチャ箱をひっくりかえしたような華やかさに彩られる。笹舟、水鉄砲、魚捕り、

そして水のかけ合い。水しぶきがあがり、歓声に包まれる。時間がアツという間に過ぎて行った。2時、子ども達は隊伍を作り引き上げて行った。

5月25日(金)鶴三小「学校運営協議会」

天原校長から「真光寺川ウォーク」協力に対する感謝のお言葉があった。今後とも継続して行きたいとのこと。真光寺川のおかげで地域で子ども達を育む気運が生まれつつあること。喜ばしいことだ。

【6月】

6月3日(土)「環境体験講座」下見

次週市民大学の「環境体験講座」が実施される。それに備えて有志による下見をお願いする。生憎、能ヶ谷神社の草取作業と重なる。8時前、早めに作業にかかる。10時、中座し下堰へ急ぐ。高橋、二田さんが三角畑の草取りをしている。集合場所の告知が曖昧だったので開戸親水まで行くことにする。そこへ北さんが下流から遡上してこられる。それでいいものと判断し開戸行きを省略す



「真光寺川ウォーク」

る。後で判ったのだが、開戸に山内、笠井さんが来られ、誰も来ないので解散されたそう。連絡の不備で申し訳ないことをしてしまった。

下堰を10時過ぎに出発、能ヶ谷橋一しただ橋一神明橋と予定のコースを辿る。広袴公園で山本さんが合流する。観泉寺を経て窪平へ。窪平では小寺さんが待っていて下さり懇切な説明がある。

12時半、和光学園前で解散。

6月8日(木)鶴三小へ「ごみフェスタ報告書」を届ける

昨年「ごみフェスタ」で4年生、44名が舞台上で「ごみの研究成果」を発表し「ごみフェスタ」に対する感想文を寄せて下さった。それを編集した報告書ができた。実行委員会の好意で子どもの数だけ頂くことができた。石渡副校長へお渡しし今年の参加も願います。

6月9日(金)「清流にする会の歩み」印刷

ここ数日、「歩み」の原版作成に追われた。既存の冊子に05年、06年分の活動を追加する作業だ。印刷の応援を笠井さんをお願いする。13時、笠井さんの車で鶴川支所へ。生憎、土砂降りの雨。機械の調子があまり良くない。16時過ぎまでかかり、24ページの冊子、80部をどうにか刷り上げることができる。

6月11日(日)市民大学「環境体験講座」

入念に準備を進めてきた「体験講座」の当日である。天気であってほしいという切なる願いも空しく朝から雨。5時、川を見に行く。増水している。9時前に開戸親水へ。市民大学のスタッフ、講師、応援の会員、集まってくる。雨天にもかかわらず受講生の参加は20名余りとなる。市民大学のスタッフと相談して川の中での清掃作業は取り止めることにする。下堰親水で橋の上からバケツを使用してサンプル水の採集と透視度の測定を行う。いこい会館へ移動してパックを使用して水質検査の体験学習。その後、和光鶴小の大川先生にお願いして「真光寺川と子ども達」のお話を頂く。教育現場のお話は具体的で迫力があり、受講生の多くから「感動した」という感想が寄せられた。12時に講座は終了し、昼食後有志による真光寺川探索を行う。十数名の参加があった。雨は小止みになり気持ちのいい散策となる。広袴公園では鳥の生態を山本さんに話してもらった。観泉寺周辺の上流域を経て窪平へ。菜園で仲村さんから生ごみ処理の堆肥についてお話し頂く。受講生との間に熱のこもった質疑応答が交わされる。14時過ぎ解散になる。



市民大学「環境体験講座」

6月15日(木)水サンプル採集家を7時半に出る。4カ所で採集する。10時過ぎに帰宅、松前さんへお渡しする。

6月22日(木)緊急対策会議

「まつり」で能ヶ谷いこい会館が使えないことになる。夕方、関係者「魚民」に集合し対策を協議する。

【7月】

7月2日(日)能ヶ谷町内会長と協議前日まで10日間ほど留守。中村町内会長と能ヶ谷いこい会館の件につき話し合う。地元優先は止むをえないのでいこい会館に切り替えることにする。

7月6日(木)一金会

能ヶ谷いこい会館の折衝経緯を報告。「まつり」の役割分担につき協議する。

7月11日(火)告知掲載

「サンケイリビング」に「まつり」の告知が掲載される。「アサヒタウンズ」へ告知の原稿送付。お世話になった川戸記者は結婚退社しアメリカに移住されるとのこと。お幸せをお祈りする。

7月14日(金)南東建・飯田係長来訪我々の活動に対して「助成金」を申請して頂けるそうだ。感謝に堪えない。

7月16日(土)会場チラシ作成

「まつり」の会場案内チラシの作成に没頭する。尾形さんがわざわざ「地図」を買って届けて下さる。

7月19日(水)会場チラシ印刷

「花の家」の奉仕活動の定例日。ついでに同一構内にある清掃事業部へ行き印刷機をお借りして「まつり」のチラシ300枚を印刷する。

7月20日(木)水サンプル採集

7時にスタート。4カ所を廻る。上流の谷戸の東岸、宅地造成益々進む。10時過ぎ松前さんへお渡しする。

7月21日(金)「アサヒタウンズ」掲載

今年は数誌に告知ができた。5回目となり次第に定着してきた証拠か。夏休みに入り市内だけでなく川崎、相模原、横浜等からの問い合わせも増える。

7月22日(土)市民大学環境講座最終講

受講生全員から講座に対する感想の発表がある。概ね好評。受講を契機にボランティア活動に参加したい方も多く心強い。「里親通信」「まつりチラシ」を配布。エコネットへ3名入会して下さる。

7月23日(日)エコネット推進連絡会議

「まつり」へ協力を要請する。トーク&デスカッションは五条さんの「真光寺川の魚」

7月24日(月)「まつり」実行委員会

18時「魚民」に集り、最終打ち合せ。

7月25日(火)「武相新聞」告知

読者から「まつり」の問い合わせが増え、手応えを感じる。鶴三小横山先生から子ども達が「ミニ水族館の魚捕りを手伝いたい」と云っている旨連絡がある。大歓迎。

7月28日(金)「まつり」前日の準備

午後5時、下堰親水に有志が集合し準備に取りかかる。「ミニ水族館」用の「魚の仕掛け」をする。鶴三小の子ども達も手伝う。ナマズを1匹捕獲「ミニ水族館」用として持参することを約束し預かってもらう。親水の繁った草を鎌で刈る。和光小大川先生へ連絡、機材を既にワゴン車に搭載した



「真光寺川まつりー2006」

とのこと。池田さんのメダカも150匹用意できたとのこと。準備万端OK!あとは空模様だけである。雲の流れが気になる。

7月29日(土)「まつり」開催

早暁、目覚める。雲の合間に星のまたたくのが見えホッとす。7時過ぎ会場へ。早くも五条池では大川先生が水槽を運び込み「ミニ水族館」の準備に取りかかっている。4枚の横断幕が張られ8本の「のぼり」が立てられると一挙に「まつり」の雰囲気包まれる。「ミニ水族館」用の魚捕り、水鉄砲の標的をぶら下げる作業、笹舟用の笹の刈取り、ガソリンスタンドからホースで水の補給等々目の廻るような忙しさだ。それでもそれぞれがテキパキとこなし9時過ぎにはスタンバイOK!となる。親子ずれがぼつぼつ集まって来る。角谷先生も早々に見える。道元の權威で我々の活動に理解を示して下さっている方だ。ご喜捨を頂く。感謝。

鶴三小の5年生、この日のために丹精した草花を持参してくれる。販売し浄財を会に寄付したいとのこと。石渡副校長、小島先生も見える。

10時、山本さんの司会でオープニング。各担当から「催し」の内容と場所を案内する。下水道部、教育委員会の方にも挨拶をお願いする。鶴三小の子ども達の代表も「花を買って下さい!」と元気よく叫ぶ。10時15分「ウォーク」のグループがスタートして行く。

下堰親水は「まつり」のメイン会場だ!水鉄砲の飛沫と悲鳴。清流で競う笹舟。網を持って魚を追う真剣な眼差し。気温がぐんぐん上がり熱気も高揚してくる。「五条池」は木陰で爽やかな風が吹き抜けて行く。鶴三小の「草花」の売れ行きも上々の様子。「ミニ水族館」ではオイカワが色鮮やかに群れている。

「いちよう会館」では親子ずれで「エコ草履」や「お手玉」の制作に余念がない。会場を駆け廻っている内に時間は瞬く間に過ぎて行く。

12時、和光鶴小の父兄「鶴つ鼓座」の勇壮な桶太鼓の演奏が始まり「まつり」の興奮は最高潮に達する。

12時半、「メダカ」の頒布には長い列ができる。

14時、終了の時刻。真夏の祭典は盛況裡に幕となる。捕まえたコイを流れに返す。

「ミニ水族館」の魚達も上流に運んで放つ。魚さん、今日一日のお勤めご苦勞様!

大川先生は家族ぐるみで後かたづけ。頭が下がる。大川先生の献身的協力なしには

「まつり」は開催不可能である。

いちよう会館で反省会。冷たいビールがノドに快かった。(この頃おわり)